

## 令和3年建設市民委員会会議録

1. 招集年月日 令和3年5月17日
2. 招集の場所 可児市役所5階全員協議会室
3. 開 会 令和3年5月17日 午前8時58分 委員長宣告
4. 審査事項

1. 報告事項

- (1) 名鉄広見線運行支援の継続について

5. 出席委員 (8名)

委員長	中村 悟	副委員長	渡辺 仁美
委員	林 則夫	委員	野呂 和久
委員	酒井 正司	委員	川上 文浩
委員	澤野 伸	委員	伊藤 壽

6. 欠席委員 なし

7. 説明のため出席した者の職氏名

建設部長	安藤 重則	都市計画課 公共交通係長	水野 正貴
------	-------	-----------------	-------

8. 職務のため出席した者の職氏名

議会総務課長	下園 芳明	議会事務局 書記	今枝 明日香
議会事務局 書記	土屋 晃太郎		

○委員長（中村 悟君） おはようございます。

会期前ではありますが、委員会を招集させていただきまして、御参加ありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の関係で13日に予定しておりました議会報告会も中止ということで、またできるだけ早いうちにやれるといいなというふうに思っております。

今日は、名鉄広見線の運行支援の継続ということでお集まりをいただきました。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから建設市民委員会を開会いたします。

これより議事に入ります。

発言をされる方は、委員の方も執行部の方も挙手をして、委員長の許可を得てからマイクのボタンを押して発言をお願いいたします。

それでは、報告事項として、名鉄広見線運行支援の継続についてを議題といたします。

執行部の説明をよろしくお願いいたします。

○建設部長（安藤重則君） おはようございます。

建設部のほうから、都市計画課所管の事業である名鉄広見線運行支援の継続について御報告をさせていただきます。

この運行支援につきましては、委員御承知のとおり、今現在3年間の協定期間で1億円、可児市は3,000万円でございますが、名鉄のほうへ支援をしておるところです。

今年度最終年度ということになりまして、令和4年度の運行継続に向けて協議をしていかなければならない年ということでございまして、こういった中で名鉄のほうから、今年1月から今の1億円を増額してほしいという御要望がございまして、数回にわたり協議をさせていただきました。これについて現時点での報告ということでございます。

それでは、お手元に資料を御用意いたしましたので、1枚めくっていただきまして1ページ目でございますが、まず協議に先立ちまして、名鉄のほうから資料として頂いたものがございますが、まず1つ目、名鉄広見線の利用状況ということで表を頂いております。

一番上が平成27年度から令和元年度までということで、一番右になりますが、合計、これが単位は回数ということですが、延べ人数とっていただければと思います。

これについては、平成27年度に90万人を割りまして、それから平成28年度、最低の利用者数ということでございました。それから持ち直して、若干ですが微増で、令和元年度には90万人に一応届いたということでございます。令和2年度については新型コロナウイルス感染症の関係もございまして、これについては記載はしておりませんが、大幅な減少ということでございます。

それで、1つ飛ばしまして3つ目の表ですが、新可児駅の御嵩方面からの乗降回数ということで、平成27年度からこれも令和元年度までの乗降数ということで、令和元年度においては1,029回、延べ人数でございますが、この数字をちょっと覚えておいていただけたらと思

います。

そして、一番下の収支推計ということで、これについては一番右にございますが、営業損益、いわゆる赤字でございますが、これが協定締結時におけるそれぞれの赤字額を示しております。年々増加しておるところでございます。

1枚めくっていただきまして、次に沿線住民アンケートの結果ということで、これもちょっと資料をつけさせていただきます。これについては名鉄広見線活性化協議会でアンケートを行っておりますが、令和2年8月に調査対象、可児市、御嵩町内の居住者ということで、名鉄広見線を利用されていない方も含めて3,400通のアンケートを行いました。

2つ今回の協議に関連があるという質問に対して御説明をさせていただきます。

まず1つ目の質問ですが、「名鉄広見線の今後の在り方について、今後も運行継続が必要か」ということで、必要だと回答された方が可児市においては67.4%という数字でございます。

次の質問で、「名鉄広見線の運行維持のための費用負担の在り方」についてのアンケートでございました。

一番上が今後も運行継続するためには市町の費用負担を増やしてもよいということについては13.6%、その下3つが増額については否定的な御意見ということで、一番上が今と同程度の費用負担であればよいというものと、その下で、利用者を増やすことで費用負担を軽減すべきと、一番下が費用負担してまで運行継続をすべきではないという、この3つをくくって約79.8%、8割の方が増額について否定的な御意見でございました。

次に高校生のアンケート結果ということで、これについてはどれほど高校生の通学として名鉄を利用しているかということが焦点でございます。

東濃高校、八百津高校、東濃実業高校の3校の在校生に対してアンケートをしたところ、通学時の名鉄広見線の利用頻度、平日はほぼ毎日利用するという生徒がその集計で414名でございます。

そしてこれがどのぐらいの割合かということで、先ほど1,029回ということで御説明させていただきましたが、この1,029回、延べ人数ですので、往復と考えると1人2回ということで、約514名の方が単純に計算で利用しているのではないかと。その514名に対して3つの学校の生徒414名ということで、約8割の生徒が通学に利用しているということが推定されるところでございます。

そんな資料をつけさせていただいた中で、3ページ目になりますが、名鉄との協議を行ってまいりました。まず令和3年1月15日に第1回目の協議をしております。

これについては近況報告ということで、一番上の点ですが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして鉄道利用者が全路線において大幅に減少しておると。当線区も極めて厳しい状況が顕著化してきたということでございます。

その2つ下の点ですが、名鉄広見線については特に設備の老朽化が著しく進んでおりまして、また人件費といった高騰もございまして、先ほど表で示したように年々赤字額が増加し

ているという状況でございます。

下から2つ目の点ですが、短期的視点ということで、運行補助の見直しを検討していただきたいということで、この見直しというのは金額についての増額ということで、この時点ではまだ金額の提示というのはございませんでした。

続きまして2回目ということで、名鉄と3市町の協議ということで2月26日に協議しております。

1番目に運営費補助金の見直しということで、これについては先ほどの表にもございますが、協定当初について1億8,500万円の赤字の状況で、そこから現状が2億4,900万円の赤字見込みとなっておりますということで、これについて名鉄としても運行本数の減便とか設備維持費を削減ということで、2億3,400万円までに削減は現時点で可能ではないかということで、その差が約5,000万円ということで、1番目の点ですが、現在の補助額1億円に対して赤字増加分の5,000万円をお願いしたいということです。

3つ目の点ですが、増額に伴いまして、現在の協定、これは3年間の協定期間なんですけど、これを1年の協定期間にしてほしいということも要望としてございました。

そういった中で第3回目について、第4回、あといろいろ複数回にわたり、この増額の5,000万円の内容の確認とか質問を我々としては名鉄のほうにしていまして、名鉄のほうも運行経費の削減とか、いろいろ提案は考えていただいておりますが、そういった中で最終4ページ目を御覧いただきたいと思いますが、4ページ目の一番下の第4回というところですが、4月30日に協議を行っております。そのときに3市町から統一した意見ということで、一番上の点ですが、可児市については現行の負担額3,000万円以上の負担は困難であるということで、御嵩町も同様でございました。

そして2つ目の点ですが、現在の状況、3年1億円というものについて、取りあえずもう一回協定を締結していただいて、この3年間の間で運行継続、さらにはダイヤの削減、運行補助金の増額等の検討をしていきたいのでお願いしたいということをお願いいたしました。

これについては、名鉄としましては現状では3年というのはなかなか難しいということでございまして、ただ我々としても、増額するにしても今の現状でいくにしても、今年度最終年度ということで、今年9月には名鉄との協定という議案について、債務負担の議案を議会のほうに議決していただければならないということで、あまりにもこの大きな問題についてこの数か月で調整をしていくのがちょっと難しいということで、3つ目の点になりますが、少なくとも1年間契約を延長していただきたいと、猶予期間ということで、今の現状で協議の期間をいただきたいということでお願いをしております。

それに対しまして名鉄の意見としましては、一番上でございますが、今現在の経営状況、これについては全路線において構造改革が急務であるということをおっしゃられました。この構造改革ということについてちょっと詳しく御説明させていただきますと、今までについては年々赤字で増加をしておったわけですが、これについては名鉄としては、名鉄広見線の赤字について、黒字路線である、例えば名鉄でいうとセントレア行きの空港線がございます

が、そういった黒字の路線から補填をしていたという経緯がございまして、1億円ということを持しておったわけですが、今回新型コロナウイルス感染症を契機に前年度決算も大分落ち込みまして、赤字に転じたということで、これじゃあ株主に説明がつかないということで、この構造改革に取り組む必要があるということで、一番上の点ですが、現状の条件では維持することはできないということでございます。

ただ、しかしながら、名鉄としてもこの増額5,000万円についてはゼロか100かの回答を求めたわけではなくて、これから協議していく条件の中で少しでも歩み寄るということで協議をしてまいりたいということで、今すぐ廃線にするということではないということでございました。

そういったことで、我々も期間を少なくとも1年ということをお願いして、これについては社内で持ち帰って検討をするという今の状況でございます。

協議等につきましては状況報告、以上でございますが、今後また名鉄とも引き続き協議をしていく中で、議会の皆様にも御意見をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○委員長（中村 悟君） ありがとうございます。

今御説明をしていただきましたが、取りあえずこれから考えていかなければいけないというものの、この場でいろいろ御質問やらただしておきたいことがあればお聞きしたいと思いますが、どなたか質問があれば。

○委員（川上文浩君） まず収支推移の営業費用、名鉄の営業費用なんですけど、営業収入に対して年々営業費用がどんどん上がって、令和2年は当然新型コロナウイルス感染症の影響で下がっていると思うんですけど、この営業費用の上げ幅、これについては名鉄側は何とおっしゃっていますか。営業費用が年々増加していっていますよね。平成21年はともかく平成25年ぐらいからですけれども、そこからだと約6,000万円、令和元年については上がっているという、この営業費用の中身についてはどのような説明をされていますか。

○建設部長（安藤重則君） 営業費用につきましては、それぞれ人件費、あと施設の修繕費、あと施設を更新するときに修繕費以外の減価償却費ということで、それぞれの年度ごとの収支をいただいておりますが、1点、令和元年度に2,000万円ほど飛び抜けて多いわけですが、ここについては枕木の交換とかそういったもので費用がかさんだということでございます。以上です。

○委員長（中村 悟君） ほかに。

○委員（川上文浩君） 営業費用というのは基本的に名鉄側が努力していくものだと、そういった施設の修繕とかそういうのはかかるんだろうなと思うんですけど、ずっと以前から言われているように、名鉄は重大な災害等で施設が欠損した場合、被害を受けた場合には、名鉄側は一切それを補修しないということを明言されていたと思う。僕はずっと第1回目から、林議員も一緒に参加してずっと見てきているんですけど、地元として。その姿勢というのは変わらないわけですね。

- 建設部長（安藤重則君） 姿勢、方針のほうですね。当然大きな災害で1か月も2か月も通行できないということであれば、そういった取りやめ、廃線というのはあろうかと思いますが、取りあえず今の部分的な修繕については修繕をしていくという方針です。
- 委員（川上文浩君） 細かい修繕は当然やっているんだけど、運行に必要な。大規模なそういった施設修繕なりなどが来る場合には、名鉄側はやらないということを前から言っていると思うんですけども、林議員、そうですね。その姿勢は変わっていないのかということです。
- 建設部長（安藤重則君） 今回の協議の中でそういった話はまだ出ておりませんが、確認しておきます。
- 委員（川上文浩君） 非常に重要な話であって、例えば落橋した場合に地元市町村でやれと、県とと言われた場合には非常に難しい話になってくるもので、物すごい莫大なお金がかかってくるので、その辺のところの、やはり基本的にずっと鉄軌道のところは全部名鉄の土地なので、管理されて資産なのでやっておられるでしょうけど、やっぱりそのところが心配かなあというようなところは1点あるのと、あとアンケートなんですけれども、これ可児市のアンケート内容の結果だけ出ているんですが、御嵩町については、僕いつも思うんですけど、御嵩町がやはり生命線だとおっしゃっている割には、アンケートの回収率も決して高くないんですよ、38%。大体30%台で推移していると思いますけれども、前のアンケートを見たときに、アンケート結果ではそれほど町民の皆さんは必要としていないようなアンケート結果が出ていたと思うんですけども、御嵩町の場合はどのようになっていますか。
- 建設部長（安藤重則君） まず、名鉄広見線の今後の在り方ということで、運行継続が必要だという回答について、御嵩町としましては、ごめんなさい、ちょっと足し算しますので…
- 委員（川上文浩君） なぜ聞くかということ、やはり共同で運行支援しているわけですね。比率は御嵩町のほうが多いんだけど、そういう意味ではやはり負担の多い、明らかに人口規模に関して、財政規模に関して負担が多い御嵩町がどう考えるかというのもすごく大事だと思うので、ちょっとお聞きしたいなと思って聞いているの。
- 建設部長（安藤重則君） 御嵩町においては73.7%ということです。その下の費用負担の在り方につきましては、まず一番上の市町の費用負担を増やしてもよいという回答が16.7%です。
- 委員（川上文浩君） あとの3つは一緒にいいの。
- 建設部長（安藤重則君） そうですね、3つは一緒に73.3%です。
- 委員（川上文浩君） 可児市とそんなに大きな差はないですね。
- 建設部長（安藤重則君） 傾向は大体ほぼ可児市と同じような傾向でございます。
- 委員（川上文浩君） これは議会から議長も出ていただいて、委員長も出ていただいておりますけれども、林議員も観光協会の代表として出ていられていますが、高校生についてなんですけれども、本来市町で、町民がとか市民がとなってくると、利用しているという部分で

名鉄広見線はそれを考える立場にはあると思うんですが、県立高校なんですよ、3校。県立高校の通学の利用とかそういう部分に関して、県とか学校とか、県の教育委員会は何と言っているんですか。通う生徒の通学の、公共のあれを保つためにどういう考え方を持ってみえるのか、全く今までの中でそういうのが、学校の校長の意見は出てくるんだけど、県としてどう考えているかというのはなかなか見えてこなくて、知事も含めてですよ。知事も県の教育長もこういった3校の学校が多くの方が名鉄広見線を利用していると。また逆に可児工業高校とか可児高校に通う方も利用される。加茂高校で利用される方もいると思うんですけども、それに対して県というのは何を考えているんですか。そういうのって分かりますか。分かればいいんです。分からなきゃいいですよ。

○建設部長（安藤重則君） 今御指摘頂いた点、非常に我々も重要だと感じておりまして、今の時点では県の教育委員会からそういった方針といったものは確認をしておりますが、今後詰めていく中で、やはり高校生が大きな利用率なので、県の教育委員会についてその辺の認識を確認したいというふうに思っております。

○委員（川上文浩君） ぜひ、ここにあるように80.4%は高校生の利用なんですよ。もうちょっと親身になって岐阜県が考えないと、市町だけの負担に押しつけていること自体が、今でも申し訳ないけど、県って一円たりとも補助していませんよね。

〔「はい」の声あり〕

ずうっとこれ市町でやっているんですよ。会議に来てオブザーバーのように座って帰っていくと。県議も指摘されていますけれども、その辺のところのスタンスと明確な意思表示というのはしてもらわないと、県立高校なんですから、私はそこは強く市町として、2市町で、八百津町も含めて3市町にもなりますが、強く要望なり回答を求めるべきだと思いますね、正式に。もしそういうのが難しければ議会でやるとか、そういう方法もあるんですけども、そこはやはり県立高校なんで、ちょっと考えてもらわないとということがあると思います。よそごとですもんね。

○委員長（中村 悟君） ほかに。

○委員（酒井正司君） 少し関連になりますが、以前補助を出したときから大きく変わっているのは、高校生の外国籍の子が多いという。この外国籍が多いということが、その生活レベルとかそういうことじゃなくして、やはり今川上議員がおっしゃった県へのアプローチのテーマの一つとして、これぜひ加えていただきたいなあと思います。

それから、最初に出ました営業費用の問題、平成28年度から急激に増えて令和2年の営業収入が極めて低いという、これは数値ですけども、高校生の利用数、あるいは一般の方の努力の数字にもかかわらず決算の内容がこういうふうということは、本当に小さな微々たる努力にかなり水を差すことになるので、この辺の詳細がもう少し分からないと、これからコロナで大きく落ち込むだろうし、名鉄の鉄道事業も大きくマイナス傾向なので、名鉄からの資料の分析といいますか、綿密な打合せというものが極めて大事になると思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（中村 悟君） ほかに。

○建設部長（安藤重則君） 今の御指摘のとおり、名鉄のほうには今これだけの情報というのは、我々も情報不足ということに感じておりますので、今の細かな点については求めていきたいというふうに思っております。

○委員（川上文浩君） 名鉄は新型コロナウイルス感染症の影響もあって、当然公共交通、運送業というのは非常に今厳しい、空も鉄道も厳しいと。バスもそうですけれども、非常に厳しいような状況になってきて、物流だけは非常に活発に動いているようですけれども、これに対して、例えばワクチン接種が終了して、そういった意味では大分心配がなくなってきたというときに、名鉄は会社としてこの公共交通についての明確な方針というのはまだ全体的なものは示されていないんですね。株主総会で出されるかどうかは分かりませんが、そういった今状況なんで、そういった細かいこともこの市町には話は入っていないということで理解しておいてよろしいですか。はい、分かりました。

可児市とすると、やはりあったほうがいいな、それはあったほうがいいんですね。東部の開発もあって、工業団地なんかの場合も公共交通があったほうが絶対有利なんでいいんですけれども、その負担額が下手すると際限なく増えていくというような状況も見え隠れしてくるとなってくると、一番困る人たちに対して、特に高校生にどうしていくかということがまず最初。その後の2割をどう考えていくかということになってくると思うんですけれども、やはり御嵩町からも増額に対する考えは一切ないというふうに出たということで、これは確かに御嵩町側は何があっても増額は出さないと、廃線になっても仕方ないというような最後は覚悟があるんでしょうか。

○建設部長（安藤重則君） 現時点でというお話しですので、御嵩町も。現時点で何千万円は難しいと。ただ、今後いろんな削減案とか提案されていく中で、名鉄がどこまで、サービスを落とす形になろうかと思いますが、御嵩町もまだ歩み寄るような姿勢かはちょっと分かりませんが、今の時点ではないということだけで、申し訳ありませんが。

○委員（川上文浩君） 1年間契約を延長する、我々は3年ですけれども、今年度で終わってしまうので令和4年度から3年の延長をしないと、前は5年と言ったけれども、これはもう駄目だということで3年に落ち着いて、向こうはずっと1年と言っていましたけど。すぐにも撤退できるような状況なんですけど、例えばこの契約期間の1年延長がうまくまとまらなかった場合には、最悪の場合に即事業撤退と、国土交通省に廃線届を出した時点でもうこれは通ってしまいますので、市町が何と言おうと、法律上は。もうやめますと出た時点で、それはもう何月何日をもって廃線にしますということは決定するんですけれども、そういった雰囲気、雰囲気と言ったって事務局と違って、雰囲氣的にどうなんですか。何がなんでものまれなかったら、うちはもう撤退するぞという勢いなんですかね。雰囲気というのはやっぱり事務局方の交渉市しか分からないところがあって、なかなか運行の名鉄広見線の対策協議会ではなかなか言えないこともあると思うんですけれども、どうなんですかね。雰囲氣的に言うと、やはり名鉄側は強硬に、やってももらえないなら廃線ありきだねということが



非常に前提にあるのでしょうか。

○建設部長（安藤重則君） やはり構造改革ということをしきりに言われていまして、名鉄の。今までどおりの黒字路線からの補填というのは考えられないということでございますが、ただ名鉄としましても、単なる今回尻尾切りということではなくて、やっぱり尻尾を切っていくことによってだんだん本線につながっていく、本線のほうへも影響があるということ、その危惧はされておりました、何とか残したいと、存続させたいという思いは伝わってはきております。ただ、その辺の金額について、落とすどころというところなんです、我々としても執行部のほうの意見としましては、当初の3,000万円の最初の根拠が、高校生の通学という比較検討の中で出てきた数字ということもあろうかと思しますので、その辺も再度廃線という最悪の場合を想定したときに、費用検討をしながら協議に当たってまいりたいと思っております。

○委員長（中村 悟君） ほかの方。何か御質問や御意見。

○委員（林 則夫君） 議長は議長の年、委員長は委員長の年に数回この会議に出ておられるようですけれども、私は観光協会の代表として第1回から36回か37回か、全回出席をしております、その流れというものはよく承知をしております、36回中、私12回ほど発言をしたわけでございますが、記録にあるかどうかは分かりませんが、記憶にある分を申し上げますと、第1回的时候に私は、名鉄広見線を活性化するためには、名鉄広見線をリニア中央新幹線の中津川市まで延長をしたらどうかというような提言をしたわけでございます。

先ほど部長の話にありましたように、双方歩み寄りというようなことをおっしゃったわけですが、歩み寄りということは一切ないわけですし、名鉄からの一方的なあれによって、この協議の中でもあまり発言する人はおられんわけですね。だからそのままになって、これを予算化するかどうか、議会に諮るかどうかというような会議になっておるわけでございます。

それで、1億円のうち可児市は3,000万円、御嵩は7,000万円ですね。この7,000万円を決定するとき、ちょっと仄聞をいたしましたところ、御嵩の議会の中で7,000万円というのは御嵩の小・中学生の給食費に匹敵するそうなんです。要するに7,000万円あれば御嵩町の小・中学生の給食がただになるというような議論も出たというような話を聞いておるわけでございます。

双方市町で1億円抛出しても何にもメリットというものが無いわけですし、例えば私は第2番目の発言のときに、今でもあるかどうか分かりませんが、特急、ミュースカイですね、セントレア行きのあれを朝1本ぐらい出したらどうかというようなことも言ったわけでございますけれども、これもそのままになっておりました、何の回答もないわけでございます。

それから、御承知かと思っておりますけれども、富山市というのは新方式で路線の編成をやっておるわけでございますが、あれは車両から軌道から一切造り直したというようなことで、莫大な費用がかかったわけでございますので、そんな費用をかけないで現行の車両のまま名鉄広見線を路面電車化して、昔あった前波駅、学校前駅を復活して、そしてそのプラットホーム

ムだけぐらい造れば、これブロックと残土ぐらいでできるわけですので、そして駅舎も要らなければ駅員も要らない、銭を使わずにそこで乗降させれば、近所の人も買物でも病院でもどこへも行けるから、そういうことも考えてみんかということを行ったわけですが、これも実現をされておられません、また広見東部の開発によって通勤者があるようになれば、当然今の淵之上辺りに駅は必要になってくるのではないかとということも申しあげたわけでございます。

それから東濃高校、東濃実業高校、特に東濃高校においては何か魅力のある学科を新設してはどうかということ、県教育委員会のほうへもその場で申し上げたわけでございますが、あの席には国土交通省、それから県と、それから名鉄と3者おいでになっておりますので、当然のことながらお聞きになっておるわけでございます。

それから生徒たちの定期券ですね、あれは実に85%オフなんですよね。だからこの辺のことも、それは使うほうの父兄にとってはメリットがあるかもしれんけれども、そんな赤字を出してまで安くする必要はないんじゃないかということも申し上げたわけでございます。

それで、先ほど申しあげましたように、いろんなことを言うよりも、とにかく全国でやったことのないような方式をひとつ手につけてみんかというのが、先ほど申しあげた電車の路面化ですね。各駅で乗降客を拾い、そして周りの空き地といいますか、不耕作地の田んぼがありますので、そういうところをお借りして駐車場にすれば、通勤通学の方たちの便宜も図れるんじゃないかというようなことを申し上げたわけですね。

それからまた、御嵩の町長が可児市の子供が大勢来ておるということをおっしゃるわけ。それでもって負担額の増額を臭わせるような発言をされるわけですが、可児市の子供、特に東濃高校へ行っておるのは今外国籍の子供が多いようでございますが、これは可児市から御嵩町へ通っておるから名鉄広見線を乗降するわけであって、この生徒が全部御嵩町に住んだら名鉄広見線を使わなければならない。この辺のことをちょっと御嵩の町長も認識不足じゃないかなということを感じたわけなんです、名鉄広見線も今年で開設以来100年になって、今年100周年記念を何かやったようですが、100年いろいろ風雪に耐えながら、苦境のときもあったと思うんです。

だから、不況になったからどうこうというわけじゃなくして、これを起源に、先100年は名鉄広見線は存続するよということも最近の協議会で私は申し上げたわけでございまして、とにかく一方的に押しつけられるんじゃないか、何かのあめ玉も必要でしょうし、そうしたものが市民への説明、町民への説明の材料になると思いますので、そこが話し合いということになるのではないかとということも申し上げたわけでございまして、それは中津川市まで延長なんていう話はとても無理かもしれませんが、後に申しあげました十数目の課題においては、当然一つぐらいはやってもいいのではないかとということで、これが一つの企業努力じゃないかということも私は思うわけでございまして、それは名鉄、大企業でございまして、公認会計士が大勢おっていろいろ算出すれば、特に減価償却費の問題なんかは何とでもなるというような面もあるのではないかと思ひまして、俺の言うことを聞かなければ廃線だぞというようなカードを振り回すようなことだけはさせないようにせんといかんと思っ

ておるわけでございます、東濃高校、東濃実業高校へ通う生徒たちも、これから100年は存続すると思っておりますので、何としても名鉄広見線は守っていきたいという気持ちはあるわけでございますけれども、寄らば斬るぞ的な発想についてはとてもついていけないというような感じがするわけでございますので、これから議会でどのような対応ができるか分かりませんが、何とかいろんな要素を組み入れながら、子供たちが安全に安心して通学できるような形にだけはしてやっていただきたいということが、私が36回会議に出させていただいた感想であります。以上です。

○委員長（中村 悟君） はい、ありがとうございます。

歴史を含めていろいろな意見をいただきましたが、ほかに何か御質問。

○委員（伊藤 壽君） ちょっと資料の確認をしたいんですけど、1ページ目の利用回数と新可児駅の乗降回数ですね、これ数字が違うんですけど、合計と総数と。これはどういうあれですかね。説明があったかもしれませんが、もう一度お願いしたいと思います。

○委員長（中村 悟君） 分かりますか、どこを言ってみえるか。

○委員（伊藤 壽君） 1ページ目の一番上の表の利用回数で合計額、例えば令和元年度でいきますと90万6,703回ですわね。その下段の新可児駅の乗降回数というのは、乗車人員、若干これ違うんですけど、乗車と降車と、降車の多いほうで見ると96万356回という総数ですわね。これはどういった違いになってくるわけですかね。

○建設部長（安藤重則君） 申し訳ございません。係長のほうから御説明させていただいてもよろしいでしょうか。

○委員長（中村 悟君） はい、答えてもらえれば。

○都市計画課公共交通係長（水野正貴君） 1つ目の表は、新可児―御嵩間の利用された方ということで、令和元年度につきましては年間90万6,703人ということになっております。その下の新可児駅の乗降回数なんですけど、新可児駅の駅を個視点で見たときに年間で90万5,480人の方が乗車されたというところ、令和元年ですけど、うち定期券の方が69万570人、1日平均が2,640人ということになっておる数字でございます。名鉄広見線の御嵩―新可児間の数字が上の表、下の表が新可児駅だけでどういう利用が今可児駅としてはあるのかというところの表でございます。

○委員長（中村 悟君） 伊藤委員、分かりましたか。いいですか。

○委員（伊藤 壽君） 分かりますけど、こういう近い数字になってくるわけですか。名古屋方面も含めた新可児駅の乗降客数と名鉄広見線全体の利用者数というのは近い数字になるわけなんですわね。

○建設部長（安藤重則君） この2番目の表ですよ。これについては新可児駅で乗られる方、名古屋、犬山方面行も入っていますので。対して上の表についてはあくまで名鉄新可児駅にある中間改札駅がございますが、そこでのカウントですので、あくまで本当に新可児―御嵩間の利用者数、乗降者数ということです。

○委員（伊藤 壽君） そうすると、すみません、ちょっと間違っておるかもしれませんが、

新可児―御嵩間のカウントする改札口を通られる方のほうがかなり多くて、名古屋方面が少ないというふうに思われますが、その辺はどういうふうに考えたらいいでしょうか。

○建設部長（安藤重則君） 申し訳ございません。これ名鉄からの資料でございますが、そこから辺の確認、ちょっと時間いただきまして確認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

○委員長（中村 悟君） はい。また分かるようにしていただければ。何か分かりましたか。

○都市計画課公共交通係長（水野正貴君） すみません。名鉄広見線の新可児―御嵩間は、これが1人の人が行きと帰りに使うものですから90万6,000人なんですけど、新可児駅の下の表は90万5,480人と、降りる人が90万6,000人なんで、合わせると180万人ほどになります。

1日の新可児駅の利用者が大体5,000人ぐらいというふうに言われていますので、掛ける365日、単純計算すると180万人になりますので、大体乗る人が95万人、それから降りる人が96万人というところでこの数字になるのかなというところでございます。

ごめんなさい、ちょっと表の作り込みが、申し訳ない、誤解を招くようで、上の表は乗り降りを含算しちゃっています。すみません、90万6,000人で、下の表は乗る数が95万人、それから降りる数が96万人というところで数字がそれぞれ分けてあるものですから、単純に上との比較ということであると、この95万4,830人と96万356人と足した数字がその利用した数ということになるかというふうに言えるかなというところでございます。

○委員（伊藤 壽君） はい、分かりました。

それと3つ目の表に、新可児駅から御嵩方面への乗降回数がありますが、いろいろ協議会のほうで御嵩町でイベント等開いて努力してみえますが、一般の乗客数を増やすために。この御嵩駅での御嵩町側の推移というのはどうなんですかね。なかなか高校生だけではもう増やす限界があると思うんですけど、一般の客を増やさないとなかなか営業収益の増には結びついてこないと思うんですが、この辺りはどうですかね。含めてお願いします。

○都市計画課公共交通係長（水野正貴君） 御嵩駅の利用というところに行きますと、2019年になりますけど、こちらの数字のほうで御嵩駅が1,280人、それから御嵩口駅というのがあるんですけど、そこが264人、それから顔戸駅が180人、明智駅が914人ということで、その利用数になっておるというところでございます。

○委員（伊藤 壽君） 3つ目の表で新可児駅の乗降回数の推移はありますが、御嵩駅ではどうなっているのかなという、その推移が。というのは、高校生だけではなかなか増えないですわね、今後限界があると思うんですが、やっぱり一般の方の利用を増やしていかないと、先ほど言いましたように収益の増には結びつかないというふう思うんですが、その辺はどうですかね。

○都市計画課公共交通係長（水野正貴君） ここ5年間で推移は、利用者数はほぼ変わっていない横ばいの状態で、御嵩駅が1,200名前後、御嵩口が250名前後、それから顔戸駅が180人ぐらいというところで、そのまま変化なく進んでいるというところでございます。

○委員長（中村 悟君） よろしいですか、伊藤委員。

ほかの方、御意見やら御質問ございませんか。よろしいですかね。

[挙手する者なし]

この件については21日の議会全員協議会でも一応全議員の前で御報告をしていただく予定ですが、今後この問題というのはどういうふうに議会で扱っていけばいいのかというのが、ちょっと申し訳ないです、私があまり分かっていないんですが、これは当然建設部の方が交渉に行かれるときに、行政の考えもあるでしょうが、議会の考えをまるっきり無視で交渉をされるということも多分無理でしょうし、大変なことだと思うんですが、議会の考え方というか、どういうふうにこれを受けていけばいいのかなというのが大変分かりにくい。何かあるごとに委員会でもらって、こういう委員会を開いて、議会全体の意思として伝えるような格好をしていくのか、この問題というのはどういうふうに受けていったらいいですかね。

○委員（川上文浩君） 議会の内部の問題ですので、代表で議長と委員長が出られているので、そのときにそれに合わせて委員会を開催して、そこで意見をしっかり申し述べるということが必要であろうというふうに思いますし、基本的には契約に関しては一切議会は関与するところではありませんので、基本的に予算のときにどうこの予算をさばっていくかということになってくるので、それまでの間の事務局の進捗状況とかをまず委員会で把握しておいて、全議員で共有して、そして議長にしっかりと物を言うところなんじゃないかなとは思いますが、委員会としては専門的にずっといろいろ細かく見ながら、いろんなものやっつけていながら調査をしていくんだらうというふうに思います。全体の意見を聴取した上で決定していくのは、最終的には予算案でどうするかですよね。多分議長にこれはお任せするしかないのかなと思います。

○委員（澤野 伸君） いわゆる名鉄広見線活性化協議会のほうは、もう存続在りきで名鉄広見線活性化協議会ということで参加させてもらってまして、存続か撤廃かという判断についても、行政側はどう考えるかということに関しては名鉄広見線活性化協議会とはまた別になってしまうので、今回ちょっとお願いしたのは、9月、増額がもしかしたらあるかもしれないということのおそれがあったので、早めにちょっと委員会には通さないと、万が一があるかもしれないというおそれがあったので、今回ちょっと委員長にもお願いした経緯がございます。

こういう状況だということも全議員知っていただいて、やはり可児市においても東部と西部とはちょっと温度差もあると思いますので、市の税をどういうふうに負担していくか、学生を守るだけであつたらバスで代替が利くと思いますし、その辺の考え方も、やはりいろんな市民の意見も我々議会として反映しなきゃいけないので、ある程度今の契約状況なんかを見据えて、議会として市民の意見を集約して、執行部に提言なり報告することはやっぱりすべきではないかなというふうに考えておりますので、今川上委員がおっしゃったように、状況をやはり逐一委員会で把握して、必要とあらばやはり議会としての考え方というものもまとめていく必要があるのではないかなというふうには考えておりますが、ぜひそういった形で、まずは9月議会に、万が一ですけれども、増額の提案があつたらもうそこですぐ判断し

なければいけませんけれども、何とかそれは防いでいただくようにはお願いしたいなというふうには思っております。

1年猶予を何とか組んで、今後の方針についてもしっかり1年かけて何とか交渉に当たっていただきたいというふうに考えておりますので、その交渉の1年という短い時間、また区切られますので、もし1年でということであれば、その辺もやっぱりしっかり情報を集約していただいて、議会のほうにもしっかり報告をしていただいて、議会のほうも市民の皆さんのお考えというものを執行部のほうに伝えていくべきではないかなと思っておりますので、ぜひ継続の形で取り扱っていただきたいなというふうに思っています。よろしく申し上げます。

○委員長（中村 悟君） ほかの委員の方、よろしいですかね、今のような方針で。よろしいですか。

○建設部長（安藤重則君） 貴重な御意見ありがとうございました。

現時点では執行部としては、先ほどの冒頭の説明でございますが、今の3,000万円以上については困難であるというスタンスで、取りあえず協議はしていきたいというふうに思っております。その中でひょっとしたらサービスが低下するかもしれませんが、減便であったりとか、さらに減便であるとか、土日の運行も削減したらどうなるのかとか、あと中間駅を廃止したらどうなるのかとか、そういったなるべく削減、削減でその提案をしてもらった上で、こんな削減になるとサービスが低下しますというような提示はしていきたいと思っております。

あと1つ、名鉄広見線活性化協議会で今まで漫然と利用客の増加について話し合っておるところですが、これについては私の考えとしましては、ある程度目標を立てたような形で名鉄広見線活性化協議会でも協議をさせていただく必要があるんですが、漫然と動くのではなく、目標値というものがあつたほうが、名鉄のほうにも理解が得られやすいということも考えております。そういったことで、取りあえず今の段階では3,000万円以上は負担できないというところがございますが、利用客の増加といったもの、具体的な数値とか案、先ほど来ありましたが、工業団地ができることで、これについても情報をこの前名鉄に話したところ、やっぱりそういったところは大きな変化になるということでおっしゃられ、大変うれしくそういうことに関しては参考にしたいということをおっしゃられましたので、そういったことを今後協議してまいりたいというふうに思っております。以上です。

○委員長（中村 悟君） ほかの委員の方、よろしいですか。御意見・御質問はよろしいですかね。

〔挙手する者なし〕

それでは、今終わり頃話になりましたが、また執行部のほうから何らかのちょっとした動きの変化があつたりとか御相談事があるようでしたら、大至急この委員会をまず開かせていただきますので、とにかく情報を入れていただきたいということと、委員の皆さんにはその都度また集まっておきたく御案内をさせていただくことになると思いますので、また御協力をよろしくお願いしたいと思います。

それでは、以上で発言もないようですので、この件に関しては終了いたします。

今日の予定はこれだけですが、何かほかに勝手に発言をしますが、委員会で何か御意見がありましたら、委員会について。

当初言いました議会報告会は本当に残念でしたが、いろいろ動いたときに各部署の方も何か積極的に乗ってきていただいたところもありますので、ぜひこの委員会もそういうことも続けていっていただくといいかなというふうに思います。

○委員（川上文浩君） 本当に残念なんですけれども、もう2年越しの外国籍の方々との交流が伸びちゃっているんで、何とかリモートを使ってでも形にはしたいかなと思ったので、いまちょっとパターンのまずいのが第4波なんですけれども、コロナの波が来て、落ち着いたときに企画して、実施しようとするとう波がまた上がってくるという、この波にすっぽり定例会の波が重なってしまっていて、非常に各議会とも全国的にそうなんですけれども、3月、6月、9月、12月と何か波が全部かぶっちゃっていて、その間にどうしてもはまってしまうので、ちょっとどっかでタイミングをずらすといい形になるような気もするような、その間に緊急事態宣言がどんどん出るものですから、それもちょっと考えて、ぜひ今年中に実現できるように努力していただければというふうに思います。

○委員長（中村 悟君） はい、ありがとうございます。

○委員（酒井正司君） 先日リモートでの会議の在り方というか、技術面をちょっと勉強したんですが、今回のような議決案件は、委員会は議決できるというあれですが、議決案件でない報告事項、ぜひリモートで1回トライして、今可児市、爆発的に感染しておりますので、その辺の準備といいますかね、議会から2人目の感染者なんか出した日にはえらい恥ですので、その辺の準備も必要かなと思います。以上です。

○委員長（中村 悟君） はい、ありがとうございます。

できるだけいろんな面でまたちょっとお知恵をいただきながら、任期の間はちょっといろいろ考えてみたいと思いますのでよろしくお願いします。

今日は急な招集にもかかわらず、御集合していただきました。ありがとうございました。

またいろいろ名鉄広見線については、個人的にも意見があるなり疑問がありましたら、またお伝えください。伝えながら答えていくことになると思いますので。

どうもすみません。今日はありがとうございました。

閉会 午前10時01分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和3年5月17日

可児市建設市民委員会委員長